

第37回中央委員会が開催!

2019年2月7日(木) 大阪リバーサイドホテルにて第37回中央委員会が開催され、金沢地本からは15名が参加し、前田書記長が議長を務めた。議事は主な取り組み経過、当面の活動方針、2019年春季生活闘争方針その他について話し合わせ、金沢地本代表の村椿代議員が質疑を行った。

【発言要旨】

①安全について、JR西日本グループ安全考動計画2022がスタートし、10ヶ月が経過したが、労災死亡事故、死亡に繋がりがかねない重大労災も発生している。グループ全体で安全確立に取り組みを進めて行き、本部本社に関わることにについては報告するので早急な対応など取り組みを要請します。

②組織について、働き方改革、契約社員の課題、シニア社員の課題、北陸新幹線教習延伸の課題など組織が一丸とならなければ解決できないものが山積している。若手組合員とのコミュニケーションを図りながら、組織強化に努めていきたいと思えます。JR連合が進める民主化闘争については、金沢地本としてもJR連合北陸地協の活動としてJRイーストユニオン新潟地本と連携し活動をしている。

③2019春闘について、今春闘は、昨年の自然災害による影響があるとはいえ、会社の業績を見ても好調であり闘える状況にあると思ふ。公正な成果配分を求め「6年連続ベースアップ」を目指したいと思っている。金沢地本は、北陸新幹線の教習延伸に伴い、働く環境が大きく変化している。金沢以西の第3セクター会社へ支援する組合員は増える一方である。是非とも出向手当の増額およびエリア手当の更なる改善を強く要請する。

④北陸新幹線について、金沢開業から間もなく5年、教習延伸まで4年となっており、これまで、今後の課題、教習延伸後の課題と多くの課題が山積している。社員運用や人事ローテーションなどJRの在来線、新幹線、支線、グループ会社、3セクと計画的に行わないと社員の意欲が低下する。山陽からの支援者については早急に山陽に復帰していただけるように養成も行っているが、金沢の現状や特情を理解し本社として協力協賛していただきたい。

⑤政治活動について、金沢地本としても各県連合、地協と連携して取り組みを進めていく。



村椿代議員

第28回地本委員会が開催!

2019年2月21日(木) 労済会館にて、第28回地本委員会を開催した。今大会では2019年春闘の統括を行うとともに、最重要課題である安全の確立について福知山線列車事故からまもなく十四年、伯備線触車死亡事故から十二年が経過し、悲惨な事故を二度と発生させないため、これまでの取り組みを振り返るとともに、引き続き安全レベルを高めていかなければならない。また2017年には新幹線に台車亀裂が生じ新幹線では初の重大インシデントを発生させたこと、JR西日本グループ鉄道安全考動計画「二〇二二」の初年度に二件の死亡労災事故を発生させたことは痛恨の極みである。グループ・協力会社を含めた職場からの安全確立の重要性を再確認した。また、北陸新幹線教習延伸に向け今まで、そしてこれからの課題について議論していくことを決定した。

本田執行委員長挨拶

1. まず安全についてであります。昨年9月に福知山線列車事故現場が、慰霊と鎮魂の場、そして私たちが安全を誓い続けている場として「祈りの杜」が整備されました。これまで通り、事故を決して忘れず、反省と教訓を胸に刻み、安全確立を最優先とする運動を進めていく事とします。昨年4月よりJR西日本グループ鉄道安全考動計画「二〇二二」がスタートしましたが3件の労災死亡事故が発生し、グループを含めた組織全体で危機感を共有化し対策を講じていく必要があります。グループ会社や協力会社とも連携し安全の再構築を図り、働く環境を向上させていく取り組みを進めて行きたいと思います。会社が実施した施策の検証と改善が重要であり、有識者会議によりPDCAのCAが不十分であるとの意見もあります。現場の実態を把握し、チェック・提言機能を強化し、安全確立に取り組むことを要請します。

2. 次に2019春闘についてですが、JR西日本の収入動向は好調に推移しており、災害に伴う特別損益は計上したものの、過去最高の営業収益、営業利益を確保できる見通しとなっています。2月7日に中央委員会を開催し、ベア3000円、年間臨給57ヶ月をはじめとする諸手当等の要求を決定し、2月

8日に会社に提出しています。働き方改革やワークライフバランスも今後は法改正もあり協議していく必要があります。3.6協定の特別延長時間に関する特別条項についても具体的な内容を明記することが言われています。地本・支社間でもしっかりと協議していくこととします。

3. 組織についてですが、金沢地本の各級機関においてもJR採用組合員の多くが役員としてその任に就いてもらっています。国鉄採用者から継承しています。ベテラン組合員が現職の間に継承することが大切であると認識しています。昨年の春闘において、JR東労組がスト権行使を予告し、会社も労使共同宣言の失効を通告し大量脱退がありました。金沢地本はイーストユニオン新潟地本の支援地本としての取り組みを進めて行きます。

社員の不祥事が発生しているので、社会人として、JR西日本社員として節度ある行動をお願いしたいと思えます。

4. 政策課題と政治参加についてですが、北陸新幹線金沢開業から間もなく5年目を迎え、教習延伸まで4年となっています。会社にも前広な情報開示を求めて行きますが、今までの課題、今後の課題をすみわけしながら課題解決に向けて会社と協議していきたいと思っています。安全の確立、働き方改革になっているのか、チェック機能をしっかりと働かせて、会社と協議していく事とします。行政に私たちの声を反映させるためには、私たちの声を代弁する議員が必要になってきます。金沢地本としても、支援行動を行っていく事とします。JR連合・JR西労組本部方針により取り組みを進めて行きます。



本田執行委員長

